

平成 28 年度学校教育自己診断〔自己分析〕

※ 【回答数】 生徒 210 人、保護者 91 人、教員 51 名

※ 数値は肯定的評価で、単位はパーセント

1. 通信制の学習システムについて

項目	教員	生徒	保護者
54. 通信制の学習システムが理解し、学習出来ている	61.7	95.2	85.6
(昨年度集計)	58.8	93.8	82.5
(増減)	+2.9	+1.4	+3.1

* 教員へは生徒の、保護者へは生徒と保護者自身の理解度を問うている。

* 生徒は、学習が進んでいない生徒の、その理由でシステムが分からないと答えた生徒の割合を引いたパーセンテージ。

通信制の学習システムは、レポート（添削指導）とスクーリング（面接指導）からなっている。勉強の仕方やレポートの書き方・提出方法などについて、丁寧な説明を行っている結果、生徒と保護者ともほぼ理解していると思われる。

2. 学習について

項目	教員	生徒	保護者
10. レポートは生徒一人で自力で完成できる内容となっている	90.2	91.0	・・・
(昨年度集計)	90.4	89.9	・・・
(増減)	▲0.2	+1.1	・・・

項目	教員	生徒	保護者
11. レポート添削は生徒の学習の理解を深めるのに役立つ	90.2	85.3	・・・
(昨年度集計)	96.2	89.8	・・・
(増減)	▲6.0	▲4.5	・・・

項目	教員	生徒	保護者
15. スクーリングの内容は、生徒のレポートの完成の手助けになっている	90.2	90.9	・・・
(昨年度集計)	92.3	89.0	・・・
(増減)	▲2.1	+1.9	・・・

生徒アンケートにおけるレポートについて、項目 10 では、昨年とほぼ同じ割合であった。項目 11 では、減少しているものの 8 割を超える生徒が満足している。スクーリングにおいても、項目 15 では、9 割を超える満足感を得ている。これは、多様なニーズを持つ個々の生徒に対して、教員が個別指導を中心とした手厚いサポートを行なっているからと考えられる。

教員評価において、項目 10、11、15 で、昨年度に比べてすべて減少しているものの比較的高い自己評価になっている。2 回の公開スクーリング見学月間や各教科で実施した研究スクーリング、またレポート作成方法についての各教科からの報告や添削レポートの公開により、自分の教科だけでなく他教科のスクーリングやレポート作成方法・添削に触れる機会が増えるなど、相互研鑽した結果が良い方向に向いてきたと考えられる。

3. 生徒の状況

項目	教員	生徒	保護者
57. レポートの提出期限を守らない生徒が多い	76.6	・・・	・・・
(昨年度集計)	70.0	・・・	・・・
(増減)	+6.6	・・・	・・・

項目	教員	生徒	保護者
55. スクーリング必要時数を超えて参加する生徒が多い	59.6	・・・	・・・
(昨年度集計)	51.0	・・・	・・・
(増減)	+8.6	・・・	・・・

自学自習が大前提となる通信制では、入学者の低年齢化（不登校等を理由に通信制を選択する者の増加）に伴い、自学自習という基本姿勢が希薄な生徒が増加している。その影響の一つとしてレポートの提出期限を守れないと感じる教員の割合が、毎年高い割合となっている。学習完了目標日を設けるなどして、提出期限を守るよう指導したが、アンケート結果からは、特に効果が表れたとは言いがたい。引き続き適切な指導をしていく必要性を感じる。

また、項目 55 で増加の傾向にあると感じている教員は、昨年度と比較して増加した。これは基礎学力が不足している生徒が増加の傾向にあり、本来通信制高校の学習の基本である自学自習が出来ず、面接指導に救いを求める生徒の増加があると感じる教員が多いことの表れである。このような生徒のニーズ（基礎基本を学習したい生徒）に対して、対応できる具体的支援（申請制で補習を実施するなど）を次年度以降講じる必要がある。

4. 組織体制

項目	教員	生徒	保護者
21. 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる	100.0	63.7	...
(昨年度集計)	86.5	58.8	...
(増減)	+13.5	+4.9	...

*生徒は「気軽に、質問や相談できる先生はいますか」を反映

項目	教員	生徒	保護者
22. 生徒指導において、家庭及び関係諸機関との緊密な連携がとれている	68.6
(昨年度集計)	67.3
(増減)	+1.3

項目	教員	生徒	保護者
19. 問題行動発生時の対応体制が整っている	64.0
(昨年度集計)	61.5
(増減)	+2.5

項目 21 では、生徒相談体制については、すべての教員が環境が整っていると捉えている。しかし生徒アンケート項目「気軽に、質問や相談できる先生がいる」と答えた生徒は昨年より 4.9 ポイント上がっているものの 63.7%にとどまっている現状であり、教員と生徒の意識に依然として開きがあり、引き続き生徒が質問・相談しやすい職員室、面接指導室及び相談室の環境整備、並びに教員の意識改善を行う必要がある。

また、項目 19 では問題事象への対応体制については、昨年度から 2.5 ポイント増えた。これは継続して取り組んできた組織的対応の強化が実りつつあることを示した数字であると思われる。引き続き、生徒状況の把握とともに問題事象に対して組織的対応ができるよう体制強化に努めたい。

5. 学校運営

【教職員のスキルアップ関係】

項目	教員
47. コンピュータ等の情報機器が、各教科のスクーリング等で活用されている	85.4
(昨年度集計)	75.5
(増減)	+9.9

項目	教員
50. 教員間で、スクーリング方法等の検討機会を積極的に持っている	71.4
(昨年度集計)	76.9
(増減)	▲5.5

項目	教員
48. 校内研修は、本校の教育課題に対応している	65.3
(昨年度集計)	82.0
(増減)	▲16.7

項 目	教員
49. 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取られている	81.6
	(昨年度集計) 78.8
	(増減) +2.8

項目 47 は昨年度から 9.9 ポイント増加して 85.4%になった。各教科でスクーリング時に I C T を活用する教員が増えてきたと考えられる。

また、スクーリング見学期間に実施した各教科での研究スクーリング、それを受けて全教員で実施した教科を超えての研究協議が好評を得たが、「教員間で、スクーリング方法等の検討機会を積極的に持っている」で、昨年度より 5.5 ポイント減少した。ここ数年同じ方法で実施しているため、マンネリ化している感もあるので、来年度は工夫して実施していきたい。

毎年 5 月、10 月に実施している生徒の疾病・障がいへの知識と理解を深める研修に加え、「ほっこりピーチ会」と連携し校内研修を行ったが、項目 48 が昨年度と比較して 16.7%減少したことをうけ、研修内容を考察する必要がある。

「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取られている」については、昨年度に引き続き上昇し 81.6%という高い評価となった。今後も初任者等の教職経験の少ない教員が毎年本校に着任してくることが予想されるので研修内容の充実を図りたい。

【教員の校務への参画意欲と准校長の役割】

項 目	教員
35. 学校運営に准校長のリーダーシップが発揮されている	90.2
	(昨年度集計) 80.4
	(増減) +9.8

項 目	教員
34. 准校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている	88.0
	(昨年度集計) 84.3
	(増減) +3.7

項 目	教員
36. 学校運営に教職員の意見が反映されている	58.8
	(昨年度集計) 60.8
	(増減) ▲2.0

項 目	教員
51. 校外研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている	65.3
	(昨年度集計) 54.0
	(増減) +11.3

項 目	教員
40. 職員会議をはじめ各種会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している	51.0
	(昨年度集計) 48.1
	(増減) +2.9

項目 36 の肯定的評価は昨年度とほぼ同じ割合であった。今後も教職員のよいアイデアは積極的に取り入れていきたい。

項目 51 については、今年度から職員会議の折りに参加した教員による研修会の報告等を実施したので、昨年度と比較して大幅に肯定率が増加した。同様に項目 40 の肯定的評価が昨年度と比較して、2.9 ポイント上昇し、5 割を超えたがまだまだ伸び白があるので、来年度の取組みに反映したい。

また、項目 35 と 34 については、昨年度に比べ 9.8 ポイントと 3.7 ポイントそれぞれ上昇し、肯定的評価については、前者は 9 割を超え、後者も 9 割近い肯定的評価を得ることができた。この数字を維持し、来年度もいろんな機会を通じて教職員に本校通信制の教育方針を伝えとともに、教職員が教育課題について互いに議論・意見交換する場を積極的にもちたい。